ホアキン・ニン＝クルメルをめぐる人々と音楽

大阪芸術大学　演奏学科　教授　熊本 マリ
（共同研究者：大阪芸術大学短期大学部　通信教育部保育学科　特任講師　紺谷 志野）

本研究の目的は、ホアキン・ニン＝クルメル（Nin-Culmell, Joaquín 1908 - 2004）の生涯と作品を通して、現代スペイン音楽の発展を考察する事である。

筆者は幼少期にスペインに移住し、現地で音楽教育を受け、スペイン王立マドリード音楽院で学んだ。日本に帰国後は、スペインの作曲家のピアノ作品を多く取り上げ、演奏会や録音を行ってきた。特に、帰国し活動の拠点を日本に移した当時に、まだ広く知られていなかったフェデリコ・モンポウ（Mompou, Federico 1893 - 1987）のピアノ作品の演奏や録音、書籍の翻訳を行ったことは、筆者の代表的活動の1つである。

本論の共同研究者の紺谷志野は、大阪芸術大学、同大学院の出身であり、筆者の指導のもとで2012年に博士論文を執筆した。この論文において、イサーク・アルベニス（Albéniz, Isaac 1860 - 1909）、エンリケ・グラナドス（Granados, Enrique 1867 - 1916）、マニュエル・デ・ファリャ（de Falla, Manuel 1876 - 1946）といったスペインの音楽家たちによるスペイン音楽の確立に、フランスのパリを中心とした音楽界が大きく貢献してきたことを述べた。また、共同研究者は博士論文執筆後も、平成24年度、平成25年度の塚本学院教育研究補助費の支給を得て、モンポウやホアキン・ロドリーゴ（Rodrigo, Joaquín 1901 - 1999）といった近代スペイン音楽の作曲家について研究を深め、その成果を報告している。

本研究の中心として取り上げるホアキン・ニン＝クルメルは、筆者が近年研究を深め、演奏会や CD 録音でも多く取り上げている現代スペイン音楽の作曲家である。ホアキン・ニン＝クルメルは、キューバ系スペイン人作曲家であり、ピアニスト、指揮者としても活躍した。父親のホアキン・ニン（Nin, Joaquín 1879 - 1949）はモーリツ・モシュコフスキ（Moszkowski, Moritz 1854 - 1925）のもとで学んだピアニスト、作曲家であり、スペイン民謡の編集も行っていた。モシュコフスキのピアノ作品にみられるスペイン的要素は、ホアキン・ニンの作品に多大な影響を与えたと考えられる。ホアキン・ニンやモシュコフスキの作品が、息子のホアキン・ニン＝クルメルのスペイン的作品にどのように影響を与えたかを考察する。

ホアキン・ニン＝クルメルは、モンポウやアリシア・デ・ラローチャ（de Larrocha, Alicia 1923 - 2009）と良き友人関係であった。ラローチャは、世界的に活躍した 20 世紀を代表するスペイン人女性ピアニストであり、筆者とも親交が深い関係にあった。ラローチャは、演奏会においてホアキン・ニン＝クルメルの作品を度々取り上げており、録音も行っている。筆者とラローチャとの関わりが、本研究を進めるにあたっての手がかりになると思われる。

2023 年 1 月現在においては、本研究に関する書籍、楽譜、CD、DVD 等多くの資料を蒐集し、共同研究者と共に研究内容の確認を行っている。ホアキン・ニン＝クルメルの家族がキューバ系スペイン人であったことや、両親の離婚、姉で作家のアナイス・ニン（Nin, Anais 1903 - 1977）との複雑な家庭環境など、音楽作品以外の問題が背景にあり、そのことが日本における知名度の低さとも繋がっているかと推察される。今後調査を進めることで、ホアキン・ニン＝クルメルの家族関係や他の作曲家との人間関係、それらが音楽作品にどのように影響を与えたかを考察する。

本研究において、これまで一般に広く知られていない作曲家について研究成果を報告し、日本における数少ないスペイン音楽の研究に貢献したいと考えている。